

ワークショップ

ゲノム医療・ゲノム編集技術は 社会をどう変えるか

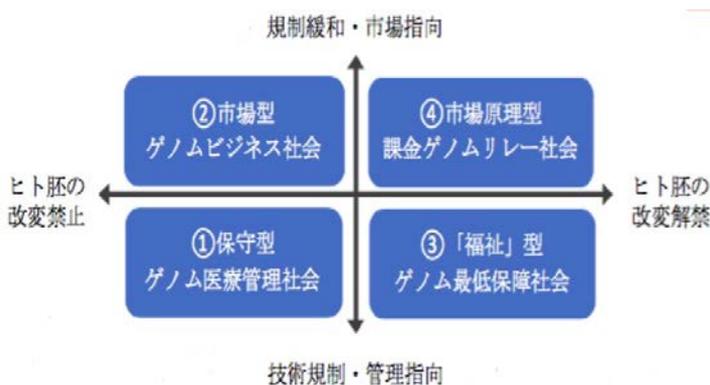
▶4つの将来シナリオで考える課題と対策◀

2018年2月7日(水) 18:30~21:30 (18:00 開場)

光塾 COMMON CONTACT 並木町

参加費：2000円(学生1000円) / 市民研会員は半額かつ同伴者割引あり / 事前予約が必要です(定員40名)

遺伝子をピンポイントで編集できる技術が生まれ、医療の世界に衝撃を与えています。コンピュータやAI(人工知能)を活用しての、ゲノム解読技術の加速的な進展とあいまって、高精度の遺伝子治療が可能となり、難病の治療や創薬にも新たな道が開けるかもしれません。しかし同時にこの技術は、「誰からどう遺伝情報を集めてよいことなのか」「何の遺伝子をどこまで変えていいのか」といった個人情報、差別・格差、倫理、安全性などに関わる重大な問題も私たちに突きつけています。ゲノム医療のテクノロジー・アセスメント(TA:技術の社会的影響評価)をグループで担い実施した東京大学の院生の皆さんの発表を軸に、お二人の専門家のレクチャーも交え、小グループに分かれての議論を主にしたワークショップ形式で、ゲノム医療・ゲノム編集技術の社会的課題と対策をじっくり検討します。



▶発表

表涼介、奈良崎翔太、藤川圭吾、松本淳志、山田知樹
(東京大学公共政策大学院修士課程「ゲノム医療 TA」グループ)

▶ゲスト講師

三成寿作(京都大学 iPS 細胞研究所准教授)

江本駿(NPO 法人 ASrid)

▶進行

吉澤剛(市民研・理事、大阪大学大学院医学系研究科准教授)

お申し込みは市民研ホームページ
www.shiminkagaku.org/
の専用サイトでも受け付けています

市民研 @ 光塾
NPO 法人 市民科学研究室
COMMON CONTACT
並木町

主催：NPO 法人市民科学研究室

お申込み・お問い合わせ：03-5834-8328 renraku@shiminkagaku.org

